

# 飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

## 第 208 回 後継者へ～経営者としての 9 つのミッション

2007.7.1

創業者・飯島岱蔵が亡くなって、今年で 19 年が過ぎ去った。先代死去による事業承継であったから、8 月から、経営者として 20 年目に入る。何年たっても、一人前の経営者になりえないでいる自分に、今更ながら情けない思いでいる。

誰かの言葉、何かの著作からの引用ではない。自分自身が、19 年間で学んだ事、いってみれば「実業の信念」、そんなものをまとめてみた。中小企業経営者への 9 つのミッションである。私の後の後継者に伝えていきたいと思っている。

### 一．三つの「つくる」... (1) 仕事を創る (2) 信頼を創る (3) 報酬を創る

従業員のため、家族のため、そして社会へ貢献するため、仕事の指示を待つのでなく、自らが「仕事を創る」のが経営者の役割である。その仕事を通して「信頼を創る」のが、仕事を創る目的である。その結果として「報酬」を頂く、これが我々の生活の糧になる。「先義後利」の原点がここにあると思っている。

### 二．三つの「おもいやり」... (1) 部下へのおもいやり (2) お客様へのおもいやり (3) 家族へのおもいやり

部下・お客様・家族への思いやりは、経営者としての最低限の条件、義務である。部下にはパワフルな動きを、お客様には感謝の念を、家族には深い愛情に裏付けられた理解を、それを自ら実践し、また一緒に行動してもらうことが、目指すべき経営像に近づけることだと思う。言葉では簡単だが、実行は難しいかもしれない。何故なら、いずれも「相手」がいるからだ。相手の気持ちを察しない限り、共鳴できない。大変、「重い槍」を使って、相手のハートを射止めることが肝心となる。

### 三．三つの「やりくり」... (1) 人繰り (2) 時間繰り (3) 資金繰り

三つの「おもいやり」を有効的に実践させるためには、「人」「時間」そして「資金」に余裕を持たなければならない。それが「人繰り」、「時間繰り」、その結果としての「資金繰り」である。「人」は中小企業経営の最大の財産。その財産をいかにして活性化させるか、それが人繰りである。時間は、1 日 24 時間と、なんびとたりとも決まっている。これをどう、効果的、有効的に使いこなすか、本人の時間活用術と言えるであろう。時には従業員、家族にも理解させる術が必要だ。健康管理も重要である。そんな諸々の中で、いかに時間繰りがうまく出来るか、経営者の資質の差となるだろう。そして常に先を見越した資金繰り、万全な計画と、いざという時のリスク回避システムの構築、これがあれば「余裕」が持てる筈である。

今後もめげずに、この 9 つのミッションの完全実践を目指したいと思っている。